

## 令和2年度第1回 安芸太田町総合教育会議 会議録

招集年月日	令和2年6月15日（月）	
招集場所	川・森・文化・交流センター3階 大会議室	
開閉会日時	開 会	令和2年6月15日（月）午前9時30分
	閉 会	令和2年6月15日（月）午前10時35分
出席・欠席委員	出席委員	橋本博明・二見吉康・清胤祐子・池野博文・河本千絵
	欠席委員	—
職務により会議 に出席した者	<p>教育委員会事務局員</p> <p>生涯学習課長 金升 龍也</p> <p>学校教育課長 児玉 裕子</p> <p>同課 主幹 免田久美子</p> <p>同課 主幹 林 健太郎</p> <p>同課課長補佐 浅田 敬文</p> <p>事務局</p> <p>総務課長 長尾 航治</p> <p>同課課長補佐 斉藤 政司</p>	
協議事項	<p>報告</p> <p>1 新型コロナウイルス感染症防止による学校対応について</p> <p>2 学校ICTの推進について</p> <p>協議</p> <p>1 安芸太田町教育大綱について</p> <p>2 学校等施設について</p>	

## 議 事 録

(午前9時30分 開会)

### ○総務課長

ただ今から、令和2年度第1回安芸太田町総合教育会議を開催します。  
開会にあたり、橋本町長よりごあいさつを申し上げます。

### ○橋本町長

今日は初めての総合教育会議ということで、まずは皆さん、それぞれ現状報告等  
含めて聞かせていただければと思っております。

私自身はこの自然を活かした町づくりを進めなければならないというか、進めたい  
ということで、皆さまに支援していただき、当選をさせていただきました。

その自然を活かしたまちづくりということの、ある意味一つの目標というのは、  
教育だと感じております。この自然を活かしたまちづくりの中でも、最終的には教  
育分野で自然観で学ぶ、そういった取り組みを含めて、この安芸太田町から地域を  
支える、あるいは広島や日本を支えていく人材を育てていく、そういうまちづくりに  
繋げていくということが最終的な目標ではないかなというふうに思っております。  
具体的な方法については、皆さんとも色々と意見交換させていただく、あるいは勉  
強させていただくことが必要かと思っておりますし、また一朝一夕に進むものでは  
ないと思っております。そういった意味では、活発な業務をさせていただきながら、  
教育を進めさせていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

### ○総務課長

続きまして教育長からごあいさつをお願いします。

### ○二見教育長

おはようございます。今日は新しい町長さんの第1回の総合教育会議でございま  
すけど、この総合教育会議については、平成27年の4月1日施行のですね、地教行  
法から始まったわけで当然、それまでも教育委員会の委員と町長さんとの、連携と  
か場あったわけですけど、きちんと会を定めて進めていくという点では、大変私た  
ちも有難いことだと思っております。そういう意味で今日から新しい町長との懇談  
の場というのを充分活かしてですね、教育委員会として思うことについて、予算化  
していただける方向へ、逆に町長さんとしての町づくりを教育へどう活かすかとい  
う点で、お互い忌憚のない意見を出し合いながら、積み上げてまいりたいと思いま  
す。よろしくお願いいたします。

### ○総務課長

それでは、ここから先の進行につきましてですけども、安芸太田町総合教育会議  
設置要綱の中には進行についてのことが書かれておりません。いつものとおり事務

局によって進行をさせていただいてもよろしいでしょうか。ありがとうございます。

ここからは、事務局で進行させていただきます。それでは2の報告事項となります。まず教育現場のことを新しい町長の方に知っていただきたいということで、設問2項ほど準備をしております。

教育委員会学校教育課の方から、(1)「新型コロナウイルス感染症防止による学校対応について」及び(2)「学校ICTの推進について」説明をお願いします。

○学校教育課長

(1) 新型コロナウイルス感染症防止による学校対応について

(2) 学校ICTの推進について

以上を資料により報告。

○総務課長

ありがとうございました。

それでは、報告事項が終了したんですけれども、ここで委員の皆さんから何かご質問とかご意見とかあれば頂戴したいと思います。(なし)

報告につきましては、以上で終了させていただきます。

○総務課長

それでは、協議事項の方に入らせていただきたいと思います。

協議事項ということで、(1)「安芸太田町教育大綱について」、(2)「学校等施設について」という2項目を準備をさせていただいております。

(1) 安芸太田町教育大綱につきましては、町長が新しく就任されました。つきましては、地教行法における教育大綱いうところの打ち出しについて、町長の方も少し時間をしっかりいただきながら、また改めたいという話を先にいただいております。したがって、今日は情報交換という意味合いを含めまして、まず、私の方から現行の教育大綱について、簡単にご説明をさせていただき、その後安芸太田町教育21・もみじプランについて教育委員会事務局の方から、説明させていただきます。

「安芸太田町教育大綱について」説明。

○学校教育課長

「令和2年度安芸太田町教育21・もみじプラン」説明。

○総務課長

それでは協議事項に入ります。

教育大綱ともみじプランについて、簡単に説明させていただきました。

これから、新たな教育大綱の制定ということになるかと思いますが、皆さまの意識を統一していくといった意味でも、現在の町長の思いでありますとか、今大綱とプランを見られた感触というものをですね、町長から意見していただければと思います。

#### ○橋本町長

一つは、改めて大きな流れという意味では冒頭申し上げたようなことで、この地域の特色を出すということですね、やはり、自然を活かした教育を進めていきたいなという思いもあるんですが、結局教育といった時に子どもさんの学力を高めていくとか、地域限らずどこでも目標になると思うんですね、その目標達成するためにじゃあ、何が違ってくるかという、例えば今言った地域の特色をどうやって活かすかということから、たまたま今この安芸太田町に素晴らしい自然があるもんですから、やっぱり町でできない教育、あるいは田舎の中でも特にここでしか出来ない教育というのは何かと考えたときに、例えばこの安芸太田町というのは太田川の源流域で、この太田川の水を多くの皆さんが頼りにして生活をされている。この安芸太田町の一つの役割でもあると思うんですが、やっぱりこの自然を守ることによって、多くの皆さんの生活を支える、そういう役割を持った町で生活をしていく、あるいはそういう役割を実際にお父さん、お母さんが果たしながらこの地域を守りながら、生活をしている。そういう背中を見せることが例えば、郷土愛に繋がるというか、そういう例えばこちらに書いてあるとおり、ふるさと回帰の潮流促進にも繋がっていくのかなと思います。

現実にもこういう形で取り組みをしていただいているのではないかなと思うんですけど、改めて安芸太田町でしかできない教育というのは、そういうところにあるのかなというふうに思っています。あるいは、私自身も選挙活動の中で話をしておりましたのが、自然を活かした教育ということで、具体的な話で申し上げておりましたのが、森の幼稚園ということに触れさせていただきました。就学前の児童さんの教育というか、そういう点で私の長男をいわゆる普通のこども園、幼稚園に預けるのではなくて、これまで対象外になっていた森の幼稚園というものに通わせておりましたけども、それは、私自身が元々文部科学省、どちらかといえば科学技術庁というところで働いていたこともあって、従来の文部行政に携わっていたわけではないんですが、そこに対する一種独特の反発みたいな部分もございまして、お恥ずかしい話なんですけど、これまでのそういった意味ではどちらかといえば、詰込みの教育というような教育の中には一律、優秀な子どもを育てていく、社会を支えるために役に立ちやすい子どもさんを育てるみたいな、私自身の思い込み見たいなものがあまして、どちらかというところではない、型にはまらない、あるいはこちらに書いていただいている、本当の意味での生きる力を持つ子どもさんを育てるには、どうすべきかという、行き過ぎた反発みたいなものがあつたものですから、その中でいわゆる躰や社会の中で生活をするためには、最低でもこれだけは守らなければいけないルールを学ぶというよりも、本当の意味で、生きていく力を育むためには何が重要かということもあって森の幼稚

園という選択をさせていただきました。その結果我が子がどうなったかというのは、まだまだはっきり区別がつくものではないですし、これからまたどうなっていくのかというのは、見ていかななくてはならないとは思いますが、ある意味確かに型にはまらない、本当に好きなことには集中できるけども、そうでないことについてはあえて我慢をしないというか、そういう子どもになっているのかなという感じはいたします。それが果たして良いかどうかというのはまた親御さんそれぞれによっても違うと思うんです。少なくとも、彼自身のこれからの人生を考える上では、良かったのではないかとこの気もしています。個人的にはそういう経験があるもんですから、確かに自然の中で育てることによって良かった面もあるのかなということもあるもんですから、それを今もこども園や就学前の児童にすべて与えるというよりも、むしろそういう選択肢もこの安芸太田町にもあるんだという形で、何かしら導入できることはないかなというのは少し考えながら、これから取り組んでいきたいなと思います。私自身がそういう感覚を持っておりますが、冒頭に申し上げましたように、教育というのはすぐに変えられるものではないし、逆にすぐに変えるべきでもないと思っています。これまでも、安芸太田町で取り組んでいただいた教育を私自身も勉強をさせていただきながら、その中で申し上げたような思いをどう組み込んでいけるかなということは、皆さんとご相談させていただきながら、進めていきたいと思っています。また、長い目で見た教育の話なんですけど、もう一方で特にお子さんを抱えていらっしゃる親御さんが特に心配をされているのが、コロナの関係で、学習面で遅れが出ているのではないかと、各同じのクラスの中でもやっぱり、教育の進み具合について差ができているのではないかとこのことを心配をされていると思います。その点について、今事務方の方からも取り組みについての説明がありましたけども、先生方の方からもですね、そういったサインが出ているのであれば、どうフォローアップしていけば良いのかということについて、またご意見をお伺いできればいいかなと思っております。

#### ○総務課長

今の町長の話を受けまして、委員さん又は教育長の方からお話があればお願いします。

#### ○清胤委員

町長さん、ご当選おめでとうございます。教育というものはこれからのまちづくりになくてはならない大黒柱だと思いますので、よろしく申し上げます。

教育大綱の方を今説明していただいて、お分かりと思いますが、若者の教育環境の整備、そしてふるさと回帰の潮流促進という、重点的にさせていただいておりますが、さっきスクリーンでも見ていただいたとおり、人数が少ないのでコロナ禍で大変な世の中、世界的な状況ですけども、わざわざ分散登校をしなくても本当にソーシャルディスタンスが常にとれている状況で、そこら辺は保護者の方々にも安心していただいて、学校教育を進められるんじゃないかと思っております。ピンチをチャン

スにというんですか、今まで町に比べて大人数でないとか、多少不便だとかいうのがありましたけども、そういうところをチャンスに変えて、移住される方々にも、そこら辺をアピールできるぐらいの環境を整えていると自負しています。詰め込み型だけではなくて、東京大学と連携をとってアクティブラーニングという協調学習も随分前から進めていまして、そのこの成果がだんだん出てきているように思います。

それから言語として、英会話もイギリスから優秀な先生方に入っていて、子ども達がどんどん英会話を楽しんでしている状況で、英語の点数なんかも反映されてきているように思います。教育目標が「地球、世界的規模のシェアを持ち」というところも大きいなと思われるかもしれませんが、今年はホテルが多いのをご覧になりました？うちも修道なんですけど、西宗川の流が見えるくらい100とか200とかじゃなくて1000、2000という感じの移住してから初めてとっていいくらい綺麗なホテルを見せてもらって、これももしかしたら、約3か月に渡る地球の経済活動の停止による、水が綺麗だとか速攻的に出るようなもんじゃないかも知れませんが、そういう所も児童や生徒たちに感じていただいてからだと思います。小さい町に住んでいるんだけど、地球の中の安芸太田町があつてとにかく、これからは新様式の生活に入ると思うんですが、これはコロナに対応するだけじゃなくて、インフルエンザとか他の病害虫にとっても有効的なことだと思いますし、それこそ考えたら安芸太田町での教育は本当に素晴らしいものがあると思います。仰るように具体的に町の自然環境の中を教材として学校教育に共有できるように、例えば遠くに修学旅行とか行けない状況であれば、町の間伐を体験するとか、川でボートをするとか今までこの町に居ながら出来なかったこと、そういうところにスポットを当ててみても面白いのではないかなと思います。個人的な意見です。どうぞよろしくお願ひいたします。

#### ○河本委員

子どもが中学生と高校性がいますので、コロナで長い休みでしたけれど、その休みの間にすごく感じたのが、田舎って良いなと。食べ物もあるし給付金もすぐ届いたし、市内の人にはすごくびっくりされました。動きの速さに。田舎は良いねと。今学校が再開をして意外に市内に通ってる高校生の娘よりも、ここにいる中学生の息子の方がオンライン的なことがしっかりあつたりしましたし、再開されても何か今、家に居ながらということが慣らされていますので、きっと今から安芸太田町の時代が来ると思いながら過ごしています。先程教育はすぐ変わるものでもないし、変えるべきものでもないと仰ったのは、本当にその通りだと思います。ここにいらっしゃる皆さんは、それこそ培ってきたものもあるし、相談したらすぐ反応返してくださる方ばかりだと思いますので、町長さんも大変な時期だとは思いますが、是非一杯相談してください。よろしくお願ひします。

#### ○二見教育長

少し視点を変えます。本日の資料に児童生徒数の表があるんですけど、中学生を見ていただくと、2つの中学を併せて94、各学年30〜32名程度。実はその中から、何人かが加計高校へ行くんですね。例年ですね約3分の2。—ということは20名程度、これが全員加計高校に行ってくれば加計高校の存続には、30人ずつ行けば3学年で90人となり、県が示す基準をはるかに突破出来ているんですけども子どもたちの人生、進路を考えた時に行政が強制できるわけもないし、表面から加計高校の良さを示しつつ、また主体的に学ぶ子どもをつくっていく中で結果として3分の2程度が地元の高校に行ってくれるのがベストかなと思っています。そういう中で残り20名を外部から確保するためには、やはり中学校や小学校段階における本町の教育の特色というものを、積み上げた結果が加計高校であるというふうに、持っていくという魅力づくりもいると思うんです。加計高校にも頑張ってください。

一方で、町としてはせっかく医療関係者の奨学金制度もありますけども、ほとんどが町外の人が活用する。久しく本町出身の医者が出てきていないというような状況、あるいは大学進学も然り。そんなに沢山増えたわけじゃない、やはり両面あると思うんです。子ども達にとって、医学なども含め、俗に難しいと言われる学部等も目指せる子どももつukらないといけないし、本町出身の教諭もつくっていかないといけない。そういう点では教育というのは非常に自然を活かしながらやりつつ、しかも世界に通用する人間をつくっていくと。その基礎を安芸太田町でやるべきだろうと思っていますので、中々学校の先生方に沢山のお願いは大変なんですけども、両面を背負っている世代かなと思わせていただきました。話せばきりがありませんけど、そういうふうな意味で、これから「21もみじプラン」を考えますけど、また町長さんのお考えを含めて、新しい教育大綱を目指してまいりたいと思います。

#### ○橋本町長

お話いただきありがとうございます。一つピンチはチャンスという、正にその通りだと思いながら、客観的に見れば間違いなく街よりもこちらの方がコロナという意味では安全なんですね。それを表に出して進めて行きたいと思いながら、行政が安全ですよというのは、逆に中々言いづらいものなんです。それは教育に限らず、観光も含めてちょっと悩むところもございます。どういう形で打ち出すことによって、安心して皆さんが来ていただける環境を作るかという。気持ち的には、間違いなくそうだなと思いながら、どういう形でそれを表に出していけば良いのかなど、いうことを悩んでいました。何かしら取り組まなくていけないことなんですけど、その中に教育の面においても、あるいはそもそも移住先に選んでいただく上で重要な考え方となると思います。

それと協調学習の話をしていただいて、私も是非また一回現場を見させていただければなと思いますが、逆に先生方にお聞きしたいなと思ったのがコロナのことも含めると中々教室に集まった学習の仕方というのが、これから難しくなっていくのかなど。実際に今も現場でさっき見させていただいたように、進む子どもたちはど

んどん進みながらも、そうでない子どももどうフォローしていくのかというのは、先生方の中でも大きな課題になっていると思うんですが、具合的にどうすれば良いかとか、教育長もさっき言っていただいたように、色んな子どもさんがいる中で大学進学はその方向でやっぱり応援して行かなくちゃいけない。そうでない子はそうでない子で、またどういう形で活躍してもらおうかという場を考えなければならぬ。そうするとむしろ、この流れは止められなくって、どちらかというところ一か所に皆集まって同じレベルまで底上げするのではなくて、ある意味集まらなくても、あるいは差が出てくるのは当然としてそういう方向に教育はなっているのかそこら辺についてを改めて先生方のお考えなりというのはお聞きできればなと思います。

もう一つは、森の幼稚園の話をしていただいたんですが、専門家の皆さんがおられる中で釈迦に説法とは思いつつながら、実は森の幼稚園というのは、自然を活かすということも重要なんですが、もう一つ学んだのがダメって言わないんです、親が。何かトライする時に普通親や教師がそれをやったら失敗をする、それをやったら大怪我をする、事前予測ができるものですから、先にダメって言っちゃうんですよ。だけど、森の幼稚園というのは、そうではなくって失敗をすることをまた一つの成長の大きな要因というか、予め親やそれについている人達が新しいことにチャレンジする子ども達の思いを大事にして、ダメって言わないんですよ。だからそっちの方が重要なのかなと思いつつながら、もちろん本当に大怪我をすよるようなことについて許していたら大事になりますから、そこは上手く回避をしなければいけないですし、先に知ってダメと言わないと言うことは、あらゆる事を前提に失敗をしても大丈夫なように親や教師たちが、事前に色んな準備というか目配りをしながら取り組むということで、それはある意味大変な負担にもなるんじゃないかと思うんですが、そういう失敗を許容できる教育というのって子どもにとってはいい関係なんじゃないかと思ったりしまして。先ほどそれについて触れなかったものですから、それを公教育でどこまでできるかという話がありますし、私が通わせていた森の幼稚園でそれが実現できたのが、結局親御さん方が集まって共同保育みたいな形でやっているからこそ、それが成り立っていたんですけども、それをどういう形でできるかなということは、しっかり考えないとそもそも、町の教育行政の中で取り組むということは、ちょっとひとつハードルが高くなるかなとは思いますが。最後は余談になりましたけど、これから安芸太田町の教育というのは、どういう方向を進べきなのか、そもそも教室に集まるということが、だんだん必要なくなるような方向になっていくのか、そこは先生方のご意見があればお聞かせ願えればと思います。

#### ○池野委員

今のICT機器の話がありましたとき、今のGIGAスクール構想の中で、1人1台のタブレットということで整備が進められているわけですが、そういう時に心配するのは、今補助金が1台4万ぐらいつくんでしょうが、ついてもですね、非常に劣化が進むと。その時に例えば更新したときに、国の補助金なり続いてくるのか、それがなくても続けられるのかというのが、とても心配します。その辺で今コ

ロナの関係があってオンライン学習なんかも進んでいますが、今まで経験したことが通用しなくなって、オンライン学習がある意味当たり前になってくるだろうと思うんですね。高校の話が出ましたが、この中山間地にいる保護者と一番の心配は、高校大学と進む時に一つは進路先をどこに求めるかと、多く経済的な負担も掛かってくる。子どもと一緒に都会に出ていく保護者が、かなりあったというのも事実ですし、そこら辺での子ども達が、都会でカルチャーショックを受けながら、色んなハンディキャップが現実にはあるんですね。この地域にとって今コロナの関係で注目されたのは、テレワークだろうと思うんですが、テレワークが進めばですね東京の家賃が高い、人混みの通勤時間が長いというようなことはないわけです。その点では共有地をですね、環境の整った地域を求めるといえるか、そこで仕事をするということが、そこら辺で一つ地方に光が当てられてくるのではないかというような気がします。

#### ○二見教育長

町長の方から、学力差の問題とかありましたけれども、東京大学とかとやってきたのは、ただ単に協調学習という手法ではなくってですね、子どもがどのように賢くなっていくかという学び方、育ち方を一緒に勉強していますけれども、結果として、ペーパーテストで色んなテストで点数の違いが出てくるのは、これは集団の中では当然のことだと思います。ただ、点数の低い子が学習の中でどうなのかと、必ずしも学んでいないのかと言ったらそうではなくて、よくわかっていると思う子どもとそうではない子が一緒に学ぶことによって、よく分かっていたと思う子どもはよりよく分かってくる。非常に違う発想の考え方を学び合っていける。そういう点が非常に大事なんですよ。それができれば、対面しながらやっていく、お互いに人と人の温かみを感じながらやっていくのが望ましいんですけど、コロナの中で、それを耐え忍んでいくというのが現在だと思いますから、願わくば将来的には人と人との交わりをしながら、また、世界の人と一緒に学び合うという意味でのICT活用というところを願っていきたいと思います。

#### ○総務課長

教育大綱についてということで、様々なご意見を頂戴しました。また、この案件につきましては、引き続き協議させていただきたいと思います。

それでは、時間の都合もごさいます。(2)「学校等施設について」ということを議題にさせていただきたいと思います。これは今日、結論を言っていただくような話ではございませんし、まずは情報共有というところからスタートしたいと思っております。では、学校教育課の方から。

#### ○学校教育課長

(2)「学校等施設について」(上殿小学校)説明

#### ○総務課長

## (2) 「学校等施設について」 (学校跡地の活用状況) 説明

### ○池野委員

合併以来ですけど、毎年 200 人近く人口も減ってきて、町長もいわれるように人口をいかに減らさない、減らすスピードを抑えるかということが大事なんですけど、資料にもあるように、非常に子どもさんの数減ってきているのが現実です。私が現職に居た頃に、出生者が数十人台に子どもの数が減ったときに、何とか元の数に戻したいということで、保育料について措置をして、30 人台に戻したことがあったんですけど、また今はこの表を見ると 20 人を割る状況ということで、私の個人的な思いでは徒歩圏に学校があるのが望ましいと思うんですけど、しかし現実問題にこの非常に広い地域にあってそれを叶えるのが非常に難しい。それから子どもさんは集団の中でこうやって成長していくのが非常に大きいかと思いますが、こういう意味での数を保証することは非常に難しい。そういう意味では、地域の活性化なり、人口減少なりペースを食い止める、そういった活性化を待つわけにいかない。今の子ども達にどう最適な教育環境を提供するか、これが大人の責任であり課題だと思っております。

### ○河本委員

理想とか、それぞれの地域ごとにももちろんこういうことがあったら良いなというもの、現実町の持っている予算とか、そこのバランスをいかにしていくかがとても大事で、あまり悠長にしていられないなと思っております。さっきも言いましたけど、合理的でかつ目指す教育像に近づけられれば良いなと思っております。

### ○二見教育長

児玉課長の方から、上殿小学校の施設に関わる説明がございましたけれども、学校統合問題と施設状況というものを切り離して考えなくてはならないのは、これは当然でありますけれども、やはりそうは言っても統合計画については、これまでも含めて地域や保護者の皆さん等々です、粘り強く教育委員会や町の考え方をお示しながら協議を進めていくと。これはこれでやらなくてはならない。

一方で、その建物の中で過ごしている子ども達や先生の安心、安全という意味で施設をどうするか、これは両方やはり平行しながら、特に時間的余裕がない中で、考えていくというのが町長部局、町長さんにも思う時期があると思いますけど、お願いしたいと思っております。残念ながら今年 7 月いっぱい 1 学期をやりまし、お盆過ぎから 2 学期が始まりますけれども、大変暑い中で、上殿の子ども達が、暑い思いをさせながらという点で、申し訳ないんですけども、そこらも含め教育委員会としてはその手立てをどうするかということは今検討中ですが、いわゆる適切な環境整備の点はこれから詰めていきたいと考えております。

### ○総務課長

この案件につきましては、また町長部局と教育委員会とが協議しながら適切な判断というものが必要となってこようと思いますので、情報共有出来る部分につきましては、この会を利用してさせていただけたらと思います。

本日本予定をしておりました協議事項につきまして、以上で終了させていただきたいと思います。この後、教育委員会議も予定しているということでございます。時間がおして申し訳ございませんでした。

それでは、閉会にあたりまして町長からひと言申し上げます。

○橋本町長

皆さん今日はありがとうございました。改めて皆さんと意見交換させていただきながら、安芸太田町の目指す教育を進めさせていただければなと思っております。

最後の上殿小学校の統廃合の件につきましてですね、また皆さんからも個別にもご意見を伺わせていただければなと思っております。

改めて、大変難しい課題ということで中々解決がというかですね、前に進めるというのが難しかったんだろうなと思いつつながら、その点については私もしっかりと経緯について勉強させていただきながら、最終的にはやはり、子どもさん方、教員の皆さんも含めてですが、子どもさん方の安心、安全ということをやっぱりしっかり考えさせていただきながら進めなければならないなというのを今日改めて感じておりますので、この件についても前に進められるように、頑張っていきたいと思っております。

また、こういう機会のみならずですね、またお気軽にというのはあれですけども、ご意見ございましたら、私の方にも直接お話をさせていただけたらなと思っておりますので、宜しく願いいたします。今日はありがとうございました。

○総務課長

ありがとうございました。では、以上を持ちまして、令和2年度第1回安芸太田町総合教育会議を終了いたします。

(午前 10 時 35 分閉会)

署名

---

---